

考えよう やって良いこと 悪いこと 〜ういえんで〜

作：神奈川県警察本部少年育成課 小島久美子
絵：神奈川県警察本部少年育成課 平野洋子

【表紙】

演出ノート



今日は、「やって良いこと、悪いこと。」について、皆さんと一緒に、お勉強して

子ども達に語りかける。

いきましょう。

それでは、紙芝居のお話を聞いて下さい。

途中で、私が、皆さんに、

「これって、やって良いことでしょうか・悪いことでしょうか。」

とか、

「皆さんだったら、こういうとき、どんな気持ちになりますか。」

などと質問します。

皆さんは、お話を聞きながらよく考え、元気に手をあげて答えて下さい。

◎ それでは、

「考えよう やって良いこと 悪いこと 公園で」

の始まり始まり。



まる吉君、ひしがた君、てん子ちゃんの三人は、公園で「たか鬼」をして遊んでいます。

- ・ナレーションはゆっくり

まる吉 「てん子ちゃん、捕まえた。」

- ・元氣よく

てん子 「まだ、私がおたく。もう、つまらない。もっと、面白い遊びしたいなあ。」

- ・ふてくされた様子で

てん子ちゃんが、ふてくされて言うので、ひしがた君は、

ひしがた 「なんだよ。自分が鬼になったところで、そんなこと言うなんてすごいぞ。」

- ・真面目に

と、言いました。

てん子 「てん子ちゃん、好、

だって、この公園、高いところは、鉄棒とタイヤくらのいで、本当につま

- ・言い訳がましく

らないんだもの。フランクとか滑り台のある公園で遊びたい。」

と言いました。



そのとき、まる吉君が、思い出したように言いました。

まる吉 「あっ、そうだ。星がた公園に、すごく長い滑り台ができたんだよ。

とっても楽しいんだ。」

てん子 「私、行ったことない。ねえ、今から、三人で行かない。」

てん子ちゃんは、もう、行く気、満々です。

でも、ひしがた君は、

ひしがた 「星がた公園は、遠いよ。歩いて行ったら、三〇分位かかるよ。」

と冷静です。

まる吉君は、自分の話した公園に、てん子ちゃんが行きたがってるのだから、うれ

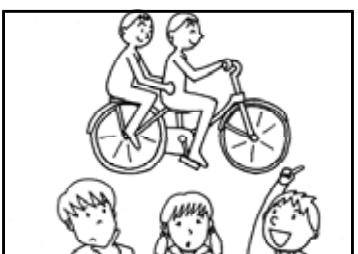
しくなり、すぐに提案しました。

・ナレーションはゆっくり

・自慢げに

・うきうきした様子で

・思慮深げに



まると吉 「自転車で行こうよ。自転車なら、すくんだよ。」

でも、てん子ちゃんは、

てん子 「私、自転車は持ってないもん。」

と、しょんぼりして言いました。

あると、まると吉君は、

まると吉 「僕とひしがた君は、家に帰れば自転車があるよ。」

だから、てん子ちゃんは、どっちかに、二人乗りすれば良いよ。」

と、言いました。

それでは、ここで、皆さんに質問します。

子ども同士で、自転車の二人乗りをすることは、やっても良いことでしょうか。

それとも、いけないことでしょうか。

では、どちらかに手を挙げて答えて下さい。

- ・ 子ども同士での自転車の二人乗り、やっても良いと思う人。
- ・ やってはいけないと思う人。

みんな、大正解ですね。自転車の二人乗りは危ないので、絶対にやめましょう。

では、お話の続きを見ていきましょう。

・ 素晴らしい提案をするように

・ しょんぼりと

・ 調子良く

子ども達に語りかける。

挙手を求める。
挙手を求める。



ひしがた君は、言いました。

ひしがた 「二人乗りはだめだよ。この前、学校で習ったじゃないか。」

まる吉君は、自分の言ったことが、まさかっと思った思いながらも、

まる吉 「それは、そうだけど…」

てん子ちゃんが、行きたがっているんだから、何とかして行いようよ。」

と、言いました。

てん子ちゃんも、

てん子 「なんか、良い方法ないかしら。」

と、考えます。

そのとき、まる吉君が、手をたたくて

まる吉 「そうだ、隣の空き地に、ずっと、置きっ放しの自転車があったよ。」

あの自転車を使えば良いよ。」

と、言いました。

・ナレーションはゆっくり

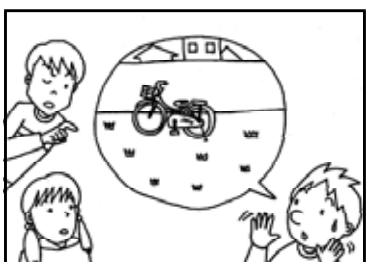
・真面目に

・口ごもりながら

・強い口調で誘うように

・思索している様子で

・明るくひらめいた感じで



ひしがた君は、また、冷静に言いました。

ひしがた 「誰のものか分からない自転車に乗るなんて、ダメだよ。」

まる吉、まる吉君は、真剣な顔をして、

まる吉 「あの自転車は、捨てたものだよ。」

だって、すぐへんちく、二週間へんちく、全然、動いてないんだよ。

とにかく、見に行ってみよう。」。

と、二人を隣の空き地に案内しました。

- ・ナレーションはゆっくり
- ・強く厳しい口調で
- ・力を込め説明するよつに



自転車は、古く、鍵は壊れていて、直ぐに乗れそうです。
まる吉は、言いました。

まる吉 「ねっ。鍵も壊れているし、きつと、これ、誰かが捨てたんだよ。

ちよつと、大きいけど、てん子ちゃんなら、乗れるよ。

鍵を直して、てん子ちゃんの自転車にするのいいよ。」

ひしがた君が、言いました。

ひしがた 「本当に、誰かが、捨てたものなのかなあ。

たとえば、おじいさんが、止めた場所を忘れてしまったとかで、持ち主
が探しているんじゃないかなあ。」

てん子ちゃんが、言いました。

てん子 「でも、こんなに、汚れているのよ。誰かが使っていたとは、思えないわ。」

皆さんは、道路や公園、空き地などに、置きっ放しになっている自転車を見たこ
とがありますか。

・ 見たことがある人、手を挙げて下さい。

ありがとうございます。

では、皆さんに質問します。

ずつと、置きっ放しの自転車があったとき、その自転車を自分の物にして使うこ
とは、良いことでしょうか。いけないことでしょうか。

では、どちらかに手を挙げて答えて下さい。

・ 自分の物として使っても良いと思う人。

・ 使ってはいけないと思う人。

ありがとうございます。

この答えは、お話の中に出てきます。では、お話の続きを見ていきましょう。

ひしがた君は、誰かが困っているように思え、この自転車で、星がた公園に行く
ことに、どうしても賛成できませんでした。

そこで、二人に提案しました。

・ ナレーションはゆっくり

・ 自慢げに

・ 思慮深げに

・ 反論するように

(間を置く。)

子ども達に語り掛ける。

挙手を求める。

挙手を求める。

挙手を求める。



ひしがた 「そつだ。お巡りさん」「この自転車に乗って良いか、聞きたいわい。」

お巡りさんなら、捨てたものか、誰かが探しているものか、分かるかも
しれないわい。」

てん子ちゃんは、言いました。

てん子 「えー。お巡りさんのところに行くなんて、何か怖いわ。」

まる吉、まる吉君が言いました。

まる吉 「悪いことをしている訳じゃないし、お巡りさんは怖くないよ。」

もしかしたら『物を大切にする子は偉い。』って、褒められるかもしれな
いよ。行くわい。行くわい。」

いっしょに、三人は、空き地にあった自転車を押し、交番へ行ったのです。

・提案するまじり

・ナレーションはゆっくり

・嫌そうに

・明るく調子よく



お巡りさんは、三人から、自転車が何日も、空き地に置きっ放しになっていた話を聞くと、直ぐに自転車を調べました。

調べ終わると、お巡りさんは、言いました。

警察官 「この自転車は、一か月前に、だいきいスーパーの自転車置き場から、盗まれたものだったよ。

教えてくれてありがとう。今、持ち主に連絡したよ。」

てん子ちゃんは、捨てたものではなく、持ち主がいたことに驚き、言いました。

てん子 「えー。こんなに汚れているから、捨てた物だと思ったわ。」

お巡りさん

警察官 「それは、一か月も放ってあれば、汚れてしまうよ。」

・ナレーションはゆっくり

・優しく説明するように

・驚いた様子で

・明るく



警察官

「まさか、捨てたものだと思って、自分の物にしようなんて、思ったりはしなかっただろうね。」

・冗談っぽく

とお巡りさんが言うところ、まるまる吉君とてん子ちゃんは、うつむいてしまいました。

・ナレーションはゆっくり

ひしがた君は、もし、自転車をてん子ちゃんが、自分の物にしていた場合は、どうなったのか知りたくて、お巡りさんに聞きました。

ひしがた 「僕達、星がた公園に行きたかったんですが、てん子ちゃんの自転車がな

・真面目に

くて、困っていただけです。

もし、この自転車を勝手に乗っていたら、僕達は、どうなったんですか。」

警察官

「お巡りさんは、三人を見ながら、優しく聞きました。」

警察官 「君達は、この自転車で乗って良いかを交番に聞きに来たんだね。」

・ゆっくりと優しく

みんなは、黙ってうなづきました。



お巡りさんは

警察官 「それでは、君達に説明しよう。」

と言い、三人を交番の中に案内しました。

お巡りさんは、言いました。

警察官 「さう、夜、この自転車を自分の物のように乗りまわしてたら……」

・ナレーションはゆっくり

・はっきりと優しく

・はっきりとした口調で



警察官 「君達は、警察に捕まっていたよ。」

三人 「えー。」

三人は、警察に捕まるような、犯罪を犯す寸前だったことに驚きました。
お巡りさんは、三人に聞きました。

警察官 「君達に聞くけれど、この自転車は、自分の物かい。それとも、自分以外
の他人の物かい。」

てん子ちゃんが、

てん子 「それは、自分の物ではないけど…」

と、ロコモもると、お巡りさんは、言いました。

警察官 「そう。自分の物ではないよね。」

他人の物を自分の物にしたら、それは、ドロボウになるんだ。

ドロボウは、警察に捕まる犯罪だよ。

いいかい。

いつでも、自分の物と他人の物をしっかりと区別して考えないといけな
いよ。」

お巡りさんは、納得できず、お巡りさんに質問を寄せた。

・はっきりとした口調で

・大きな声で驚いた様子で

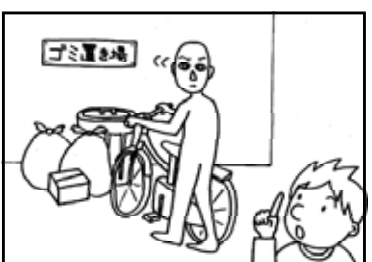
・ナレーションはゆっくり

・優しく問いかける

・ロコモりながら

・ゆっくりと説明する

※「自分の物と他人の物
を区別する。」の文字をボ
ードに貼る。



まる吉 「でも、もし、この自転車が捨てた物だったら、どうなんですか。

僕は、物を大切にすることは、良いことだと思つたのですが。」

すると、お巡りさんは、穏やかに

警察官 「確かに、自分の物、家族の物、学校の物などを大切に扱つことは、大事なことだね。

でも、『物を大切にすること』、『ということ』と、『他人の物を自分の物にしてしまう。』、『ということ』とは、全く別の話だよ。」

と言い、三人が分かるよう、ゆっくり説明しました。

警察官

「自転車は、『ゴミ置き場とか、空き地などに捨ててはいけない、という、社会の決まりがあるんだ。

だから、自転車がなくなったときは、お店の人に頼んで、引き取ってもらつんだ。

街で、捨ててあるように見える自転車は、盗まれた自転車で、『盗んだ人が、乗り捨てた。』、『ということ』が、よくあるんだ。」

・訴えるように

・ナレーションはゆっくり

・ゆっくりと優しい口調で

・はっきりした口調で

・ゆっくりと説明する



その話を聞き、ひしがた君が言いました。

ひしがた 「それでは、捨てたものと間違えて、自転車を自分の物にしたら、持ち主のところに、自転車は返らなくなっちゃいますね。」

警察官 「そんなんだよ。君は、良い点に気付いたね。

君達も、もし、自分の自転車が盗まれたら、どうだい。

誰かが、どこかで、大切に使用ってれば、それで満足かい。」

まる吉君は、すかさず

まる吉 「それは、嫌です。自転車が、自分のところに戻ってこないと困ります。」と言いました。

すると、お巡りさんは

警察官 「そうだろう。」

見つけた人が、警察に届け、警察が持ち主に連絡すれば、自分のところに自転車が戻ってくる。そしたら、うれしいだろう。」

この自転車の持ち主も、自転車が見つかって、君達に感謝するんじゃないかな。」

と、笑顔で言いました。

・ナレーションはゆっくり

・思慮深げに

・寝めるように

・質問する口調で

・訴えるように

・ゆっくり説明する

（間を置く。）

・穏やかに



てん子ちゃんが、

てん子 「私、お巡りさんは、もっと、怖い人かと思ってました。」

と言つと、お巡りさんは、

警察官 「それは、違つよ。警察官は、悪いことをする人には立ち向かつていくが、

困っている人を助けることも、大事な仕事なんだよ。

そつだ、いい機会だから。君達に、大切なことを教えよう。」

と言い、話を続けました。

警察官 「まずは、物事を行うときは、自分の頭で、しっかりと、やって良いこと

か、悪いことを判断すること。そして、正しい行動をとることが大切だよ。

そして、考えても分からないとき、それから、困ったときなどは、お父さん、お母さん、先生、ときには、私達警察官に相談することも大切だ。

今日、君達が、怖がらず、そして、恥ずかしがらずに、相談に来たことは、正しい行動だったね。」

と言つて、三人を褒めました。

・ナレーションはゆっくり

・はさかしそうに

・優しく

(間を置く。)

・教えるように

「やって良いことや悪いことが判断する力を持つ。」をボードに貼る。

「わからないときや、こまったときは、大人に相談する。」をボードに貼る。



そのとき、自転車の持ち主のお姉さんが、交番にやってきました。

持ち主 「お巡りさん、私が自転車の持ち主です。」

古い自転車なのに、よく、見つけてくれました。」

お巡りさんは、言いました。

警察官 「見つけてくれたのは、この子ども達ですよ。」

持ち主のお姉さんが、言いました。

持ち主 「あら、そうだったんですか。みんな、ありがとう。」

この自転車は、亡くなったお母さんが使っていた自転車なのよ。

今は、私が乗っていて、もう、十年近く使っているから古いけど、外出

するときには、いつも、『お母さんと一緒』って、思っていたの。

だから、盗まれてからは、寂しくなってしまうて……

でも、これで、また、元気に外出できるわ。

私にとっては、宝物の自転車なの。本当にありがとう。」

まる吉君、ひしがた君、てん子ちゃんは、持ち主が、喜んでいる姿を見て、とて

も良いことをした気持ちになり、うれしくなりました。

・ナレーションはゆっくり
・うれしそうに

・説明するように

・感謝の気持ちで

・説明するように

・寂しそうに(間を置く。)

・うれしそうに



演出ノート

三人は、お巡りさんとお姉さんに挨拶をして帰ることにしました。
交番から出ると、直ぐに、ひしがた君は、まる吉君を心配して言いました。

ひしがた 「まる吉君。」

まずは、自分の物と他人の物を区別すること。
区別しないと、ドロボウになっちゃうからね。」

まる吉君は、照れ笑いをしながら

まる吉 「もう、分かっているよ。」

てん子ちゃんも星がた公園で遊びたかったし、自転車も、まだ乗れそう
だったから、つい、もったいないと思ってしまっただけだよ。

持ち主の気持ちを考えたら、絶対に、他人の物を自分の物にしようなん
て、思わないよ。」

と言いました。てん子ちゃんも

てん子 「そうね。他人の気持ちを考えて行動するって、大切なことなのね。

自転車、あんなに汚れていたのに、お姉さんは、とても喜んでくれたわ。」
と、お姉さんのうれしそうなお顔を思い出しながら、言いました。

お話の中では、お姉さんは、「自転車が盗まれてからは、寂しくなっていました…」
と言っていました。

では、皆さんに質問します。

もし、みなさんが、自分の自転車を盗まれてしまったら、どんな気持ちになりま
すか。答えてくれる人は、手を挙げて下さい。(二丁三人に発表を求める。)

ありがとうございます。

『どうしよう。』と困ってしまう人、『誰が盗んだんだ。』と怒りがこみ上げてく
る人、『お母さんに怒られちゃう。』と不安な気持ちになる人など、いろいろな思い
を持ちますね。

今、発表があったように、自分に置き換え、被害にあった人の気持ちを考えるこ
とは、とても大切なことです。

他人の気持ちを考えて行動ができるようになりましょう。

場面17、場面21を飛ばして、場面22へ進んでも良い。

・ナレーションはゆっくり

・厳しい口調で

ボードの文字を指す。

・言い訳するようにつ

・納得した様子で

「他人の気持ちを考え
て行動する。」をボードに
貼る。

子ども達に語りかける。

何人かに答えを求める。

ボードの文字を指す。



もう一つ、みなさんに質問します。

子ども達に語りかける。

お話では、ひしがた君の提案で、自転車に乗って良いかをお巡りさんに聞きに行き、三人は、警察に捕まるようなことにはなりませんでした。

では、もしも、空地に自転車を見に行ったとき、まる吉君とてん子ちゃんは

「この自転車を使って、星がた公園に行こう。」

・楽しそうに

と決め、ひしがた君は、

「僕は、反対だ。そんなことをするなら帰る。」

・怒った口調で

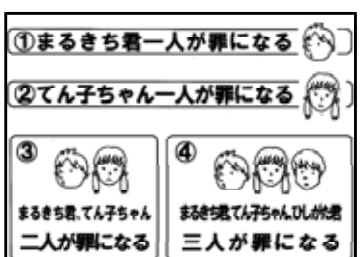
と言い、帰ってしまったとします。



そして、星がた公園に向かっていてる途中、まる吉君、てん子ちゃんは、お巡りさんに声を掛けられ、自転車を調べられて、他人の自転車に無断で乗っていたことが分かってしまいました。

子ども達に語りかける。

このとき、罪を犯したことになるのは、誰でしょうか。



空地に自転車があることを教えた、まる吉君一人が罪になる。

自転車を持っていない、てん子ちゃん一人が罪になる。

自転車に乗ろうと決め、一緒に乗っていた、まる吉君とてん子ちゃんの二人が罪になる。

自転車を見に行ったときに一緒だった、ひしがた君も含め、まる吉君、てん子ちゃん、ひしがた君の三人が罪になる。

さて、みなさんは、どれが正解だと思いますか。

四つの答えのうち、どれかに手を挙げて答えて下さい。

「まる吉君一人が罪になる。」と思う人。

「てん子ちゃん一人が罪になる。」と思う人。

「まる吉君とてん子ちゃんの二人が罪になる。」と思う人。

「まる吉君、てん子ちゃん、ひしがた君の三人が罪になる。」と思う人。

正解は、の自転車に乗ろうと決め、一緒に乗っていた、まる吉君とてん子ちゃんの二人が罪になります。

そして、もし、てん子ちゃんがその自転車に一人で乗り、まる吉君は自分の自転車を使ったとしても、「この自転車で行こう。」「この自転車を使おう。」と二人で決めていれば、まる吉君とてん子ちゃんの二人が罪を犯したことになります。

犯罪は、「自分の物にした」とか「自分が使った」という場合はもちろんですが、たとえ、それを自分が使わなくても、「悪いことをしよう。」「一緒に決めた人は、罪を犯したことになります。」

そして、ひしがた君のように、「反対」と言い、帰ってしまった人は、罪にはなりません。

お友達が悪いことをしようとしているときは、「ダメ。」と注意して、止めさせましょう。

そして、みんなで、悪いことはしない、悪いことに流されない強い意思を持ちましょう。

答えを読むように。

挙手を求める。
挙手を求める。
挙手を求める。
挙手を求める。
子ども達に説明する。

「悪いことはしない、悪いことに流されない、強い意思を持つ。」をボードに貼る。



子ども達に語りかける。

では、もう一つ、みなさんに質問します。

今度は、罪になるかどうかではなく、人の気持ちを考えてみましょう。

「もしも」のお話の続きです。

まる吉君とてん子ちゃんはお巡りさんに捕まってしまいました。

そして、警察署に連れて行かれ、そこに、知らせを聞いた、まる吉君とてん子

ちゃんのお父さん、お母さんがやってきました。

このときの、自分の子どもが、警察に捕まるような犯罪を犯したと知った、お父さんやお母さんの気持ちを考えてみましょう。



お父さんやお母さんは、どんな気持ちになっているでしょうか。

- 1 子どものことを怒っている。
- 2 ショックを受けている。
- 3 その他の気持ち。

3つの答えのうち、どれかに手を挙げて下さい。

- 1 子どものことを怒っている と思う人。
- 2 ショックを受けている と思う人。
- 3 その他の気持ちだと思う人。

では、何人かに、「その他」どんな思いか聞いてみましょう。

みなさん、家の中の生活を思い出して下さい。

お父さんやお母さんは、皆さんが悪いことや間違えたことをすると、叱ったり、注意すると思います。

それは、皆さんに「良い子に育って欲しい。」「と願っているからなんですよ。

そして、叱ったり、注意をしたことが、きちんとできている子どもの様子を見て、お父さん、お母さんは、安心して「やっぱり、良い子だなあ。」「と自分の子どもを信じています。

だから、良い子だと信じている自分の子どもが、警察に捕まるような犯罪を犯していたと知ったときは、とても残念で、悲しい思いをします。

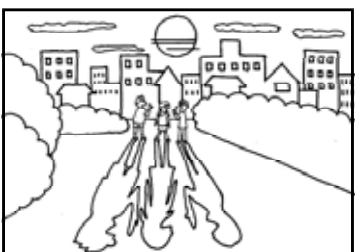
みなさんは、自分のことで、お父さんやお母さんが泣いたり、悲しい思いをしたらどうですか。

うちの人の気持ちを考え、悲しませるような行動は、止めましょう。

子ども達に語りかける。
答えを読むように。

挙手を求める。
挙手を求める。
挙手を求める。
挙手した人に答えを求め
る。

説明するように



家への帰り道、まる吉君が

まる吉 「お姉さん、とっても喜んでいたね。

僕達、なんか、すっごく良いことしたよね。」

と言いました。すると、てん子ちゃんは、

てん子 「でも、ひしがた君がいなかったら、私達、ドロボウになっていたわ。

自分の物と他人の物を区別しないといけないわね。」

と、反省して言いました。ひしがた君は、真面目な顔で

ひしがた 「やって良いことが、悪いことが、しっかり判断しないと、大変なことに

なるんだね。」

と、言いました。

てん子 「そして、分からないときは、怖がったり、恥ずかしがったりしないで、

大人に相談することも大事なのよね。」

と、てん子ちゃんが言つと、まる吉君も、

まる吉 「そう。それから、他人の気持ちを考えて行動すること。

考えたら、悪いことなんかできないよね。」

と、付け加えました。

ひしがた君は、

ひしがた 「今日は、いろいろと勉強になったよ。

僕たちは、絶対に、悪いことはしないって、約束しよう。」

と言つと、まる吉君は、

まる吉 「もちろんだよ。」

と答え、てん子ちゃんは、

てん子 「大人になっても、ずっとよ。」

と、付け加えました。

ひしがた君は、まる吉君やてん子ちゃんの言葉を聞いて、うれしくなり、

ひしがた 「ねえ、今度の日曜日、三人で星がた公園に遊びに行こうよ。」

そのときは、歩いていこう。」

と誘い、三人は日曜日の約束をして、それぞれの家に帰りました。

・ナレーションはゆっくり
うれしそうに

・反省している様子で
ボードの文字を指す。

・真面目に
ボードの文字を指す。

・説明するように
ボードの文字を指す。

・理解していることを自慢
するように
ボードの文字を指す。

・真面目に
ボードの文字を指す。

・真剣に

・真剣に

・うれしそうに

【おしまい】

これで
「考えよう やって良いこと 悪いこと 公園で」
の紙芝居はおしまいです。

みなさん、何日も置きっ放しになっている自転車でも、勝手に乗っていったら、警察に捕まる犯罪になるといことが分かりましたか。

分かった人は、手を挙げて下さい。

それでは、そういうことは、絶対にしないと約束してくれる人は、手を挙げて下さい。

ありがとうございます。

みなさん、今日のお話を忘れず、お互い気持ちよく生活できるよう、社会のルールをしっかり守っていきましょう。

それから、お話の中で、大切なことを教えていただきましたね。

- ・ 自分の物と他人の物を区別する。
 - ・ やって良いことが、悪いことが、判断する力を持つ。
 - ・ 分からないときや困ったときは、大人に相談する。
 - ・ 他人の気持ちを考えて行動する。
 - ・ 悪いことはしない、悪いことに流されない、強い意思を持つ。
- この五つのことをしっかりと身につけましょう。

時間があるときは、質問 を行う。

終わりにするとき

この五つのこと、皆さん、できますか。できる人は、手を挙げて下さい。ありがとうございます。大勢の皆さんの手が挙がりました。

では、とても大切なことなので、みんなで声を出して読んでみましょう。

- ・ 自分の物と他人の物を区別する。
- ・ やって良いことが、悪いことが、判断する力を持つ。
- ・ 分からないときや困ったときは、大人に相談する。
- ・ 他人の気持ちを考えて行動する。
- ・ 悪いことはしない、悪いことに流されない、強い意思を持つ。

大きな声で、元気に言うことができました。この五つ、しっかりと身につけ、他人に迷惑を掛けず、正しい行動がとれる、お兄さん、お姉さんになりましょう。

それでは、これで「やって良いこと 悪いこと」のお勉強をおしまいにします。



演出ノート

子ども達に語りかける。

挙手を求める。

挙手を求める。